

国語 2 説明的な文章を読む（「葉の形」）

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔園池公蔵〕「植物の形には意味がある」による。

〔園池公蔵〕「植物の形には意味がある」による。

- 〔注1〕 突っ込み⇨相手の話のおかしなところを見つけてかめること。
 〔注2〕 葉としての役割⇨ここでは、葉の多様な役割の中の、光合成をするという役割について述べている。
 〔注3〕 普遍性⇨すべてのものに当てはまる性質。
 〔注4〕 庶入りの葉⇨地の色と違った色がまだらに混じった葉。
 〔注5〕 ナンバンギセル⇨イネ、ススキ、サトウキビなどの根に寄生する植物。光合成をせずに、寄生した植物の根から吸収した栄養分に依存して生育する。
 〔注6〕 寄生植物⇨他の植物に寄生し栄養分を吸収して生育する植物の総称。

一 〔図〕「さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものととして適切なもの、次の1から4までのの中から二つ選びなさい。

- 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
- 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
- 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることを根拠を示す役割。

二 線部①と線部②の関係を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 線部②で、線部①の内容を抽象的に言い換えている。
- 2 線部②で、線部①の内容を具体的に言い換えている。
- 3 線部②で、線部①の内容についての推測を述べている。
- 4 線部②で、線部①の内容についての意見を述べている。

三 線部③「ネギの葉」と、線部④「ナンバンギセルなどの寄生植物」を取り上げていることについて次のようにまとめます。次の〔A〕、〔B〕に入る言葉として最も適切なものを、あとの1から4までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

例は、Bを述べるために示されており、「ナンバンギセルなどの寄生植物」の

- 1 植物の葉の二次元的な形が多様に存在すること
- 2 植物の葉の二次元的な形が一言に集約できること
- 3 植物の本質的な生き方には例外がないこと
- 4 植物の本質的な生き方にも例外があること

四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで（どちらを選んでもかまいません）要約しなさい。

なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。
イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

（着目する内容）

① ②
「選んだ（着目する内容）を塗りつぶしなさい。」

--	--	--	--	--

出題の趣旨

説明的な文章を読む場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること
- ・ 具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること
- ・ 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えること
- ・ 目的に応じて必要な情報に着目して要約すること

「C読むこと」の学習においては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱う必要がある。また、説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げることも必要である。

説明的な文章は、例えば、文章の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分とが組み合わされていたり、事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりする。説明的な文章を読む際には、このような特徴を踏まえて読み、その理解が恣意的なものとならないよう、叙述を基にその構造を適切に捉えることが大切である。また、文章を読んで理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする学習の際に、生徒一人一人の理解や解釈が適切であるかを検討する場面を設定し、必要に応じて修正したり更新したりすることができるように指導することが重要である。

本問では、葉の形を表す言葉を二次元的（平面的）な形容と三次元的な（厚み方向の）形容のグループに分け、それぞれの特徴を示した上で、生物学がどのような学問なのかを述べた文章を取り上げた。文章と図とを結び付けて内容を解釈したり、具体と抽象との関係や主張と例示との関係を捉えたりすることに加え、目的に応じて文章の内容を要約することを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ア 説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動。

設問一

趣旨

文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。《精査・解釈》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
②	1	1、2と解答しているもの	36.7	◎
	2	1と解答し、2と解答していないもの	27.9	
	3	2と解答し、1と解答していないもの	25.4	
	99	上記以外の解答	9.4	
	0	無解答	0.5	

2. 分析結果と課題

- 平成25年度【中学校】国語B¹二（正答率63.4%）において、「図と文章との関係を捉えること」に課題が見られた。これに関連して、本問でも、同様の趣旨で出題したところ、正答率は36.7%であった。今回の結果から、図と文章との関係を捉えることについて、引き続き課題があると考えられる。

(参考)

○関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
H25B ¹ 二	図が示す内容を説明したものとして適切なものを選択する	63.4%	pp.50-56	pp.60-65

(参照)

「平成25年度【中学校】報告書」 pp.60-65

<https://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukouku/data/research-report/13-j-language-05.pdf#page=2>

- 解答類型 2、3 の反応率の合計は53.3%である。このように解答した生徒は、文章と「**図 さまざまな形の葉**」とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。

解答類型 2 の生徒は、「**図 さまざまな形の葉**」と第一段落とを結び付けて読むことで、読み手が実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるよう、補助する役割をもつことを捉えることはできているが、第二段落で筆者が例示している「さまざまな形容」と結び付けて読むことで、実際にどのような形なのかを、読み手が具体的に捉えることができるようにする役割をもつことを捉えることができていないものと考えられる。

解答類型 3 の生徒は、「**図 さまざまな形の葉**」と第二段落で筆者が例示している「さまざまな形容」とを結び付けて読むことで、実際にどのような形なのかを、読み手が具体的に捉えることができるようにする役割をもつことを捉えることはできているが、第一段落と結び付けて読むことで、読み手が実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるよう、補助する役割をもつことを捉えることができていないものと考えられる。

- 本問と**1二**とのクロス集計の結果から、本問で正答（解答類型 1）の生徒のうち、**1二**でも正答（解答類型 1）の生徒の割合は、79.8%であった。このことから、読むことにおいて、文章と**図**とを結び付け、その関係を捉えることができている生徒の方が、話す際に、自分の考えが分かりやすく伝わるように**図**を用いることができていると考えられる。

2一と**1二**とのクロス集計の結果

(%)

2一	1二		
	全体	正答	誤答または無解答
正答	100.0	79.8	20.2
誤答または無解答	100.0	62.4	37.6

※表の数値は、小数第二位を四捨五入したものであるため、合計が一致しない場合がある。

3. 学習指導に当たって

文章と**図表**などを結び付け、内容の理解に生かす

図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている**図表**などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、**図表**などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えることが重要である。

例えば、パンフレットや雑誌の記事、ウェブサイトを示されている文章など、実生活の中にあるものを教材として取り上げ、文脈を踏まえた上で**図表**などがもつ役割について考える学習活動が考えられる。その際、**図表**などが文章中にある場合とない場合とを比較し、**図表**などが示されていることによって何がどのように分かりやすくなるのかを説明し合うことで、筆者が**図表**などを用いた意図を考えるように指導することが有効である。

【コラム①】「読むこと」での学びを広げる・深める

～文章と図表などを結び付けて解釈する～

- 実生活で読む文章の中には、概念図や模式図、地図、表、グラフなどを伴うものが多くあります。このことを受けて、「教材についての配慮事項」に、各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の教材について、「説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げること」が示されています。これは、小学校・中学校に共通した配慮事項です。

「C読むこと」の(1)には、図表や写真などを含む説明的な文章を用いて、次のような内容を指導することが示されています。

	(小) 第5学年及び第6学年	(中) 第2学年
精査・ 解釈	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。	ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。

小学校・中学校に共通しているのは、「文章と図表などを結び付け」ることです。中学校では、小学校で学んだことを生かしながら、文章と図表などを結び付けて関係を捉え、その関係を踏まえて内容を解釈することができるように指導することが求められています。

例えば、[2](#)の本文中の「**図** さまざまな形の葉」は、第二段落の終わりに「(図)」とあり、文章との結び付きが明示されています。それを手掛かりに、第二段落やその前後の段落で述べられている内容と「**図** さまざまな形の葉」とが、どのような関係になっているのか、図がある場合とない場合を想定して考えたり、考えたことを説明し合ったりすることが、文章と図表との関係を捉えることにつながります。このような読み方をすることで、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ることができ、書き手の表現の意図について考えることができるようになります。

実生活の中で図表などを含む文章を目にすることは多くても、それらを結び付けて解釈する読み方は、自然に身に付くものではありません。国語の授業の中で意図的に指導し、他教科等の学習や実生活に広げていくよう促すことが必要です。

* * * * *

今年度調査の[1](#)の設問二で、話し合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を丸で囲む問題を出題しました。クロス集計の結果、[2](#)の設問一で正答している生徒のうち、79.8%の生徒が[1](#)の設問二でも正答していることが分かりました。

このことから、文章と図表などを結び付けて解釈することと、図表などを用いて分かりやすく伝えることとを関連付けて指導することが有効だと考えられます。伝えたい内容を適切に伝えるために、どのような資料を使うのかを検討するには、話の内容と資料との関係を考えることが必要になります。その際、例えば、教科書に掲載されている説明的な文章などを振り返り、文章の中での図表、グラフ、写真などの用いられ方を参考にすることで、聞き手の理解をより深める資料の用い方について、筋道立てて考えることができます。

授業で学んだことを、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」にしていくためには、領域間での学びを結び付けたり、国語以外の教科等での学習、生活などに生かすように促したりすることが大切です。

設問二

趣旨

具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項

ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

《情報と情報との関係》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
②	1 1と解答しているもの	8.1	
	2 2と解答しているもの	75.5	◎
	3 3と解答しているもの	7.6	
	4 4と解答しているもの	7.7	
	99 上記以外の解答	0.6	
	0 無解答	0.6	

2. 分析結果と課題

- 令和5年度【中学校】国語③三（正答率62.3%）において、「具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること」に課題が見られた。これに関連して、本問でも同様の趣旨で出題したところ、正答率は75.5%であった。問題形式等の違いを考慮する必要はあるが、今回の結果から、具体と抽象の関係を理解することについては、改善の状況にあると考えられる。

(参考)

○関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
R5③三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	62.3%	pp.25-31	pp.48-60

(参照)

「令和5年度【中学校】報告書」 pp.48-60

https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang_04_k_1.pdf#page=31

- 解答類型1、3、4の反応率の合計は23.4%である。このように解答した生徒は、文脈の中で、具体と抽象の関係について理解することに課題がある。――線部②が――線部①の内容を具体的に言い換えていることを捉えることができなかつたものと考えられる。

解答類型1の生徒は、「具体的」や「抽象的」という言葉の意味を十分に理解していないものと考えられる。解答類型3の生徒は、――線部①の「できそうです」という文末と、選択肢3の「推測」という語句とを結び付け、――線部①の内容について推測したことを――線部②でまとめて述べていると誤って捉えたものと考えられる。解答類型4の生徒は、――線部①と――線部②とを接続している「つまり」という語句と、選択肢4の「意見」という語句とを結び付け、――線部①の内容についての意見を――線部②で述べていると誤って捉えたものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

文脈の中で、具体と抽象など情報と情報との関係について理解する

具体と抽象の概念を理解するには、「具体」、「抽象」という言葉の意味を確認するだけではなく、身近な情報の中から具体と抽象の関係になっている事例を取り上げて、それぞれの概念と実際の事柄とを結び付けて理解することが大切である。そのような学習場面を、第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の(1)「ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。」や、第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(1)「ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。」などとの関連を図って位置付けた上で、実際に読んだり書いたりする中で具体的に捉えることができるように指導することが効果的である。

例えば、報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする学習活動の中で、具体と抽象の関係について指導することが考えられる。その際、生徒の実態に応じて、具体と抽象の概念を理解する学習場面を工夫して位置付けることが重要である。その上で、具体的な例示の部分と、抽象的にまとめて述べられている部分とに着目して文章の内容を捉えたり、読み取ったことをまとめる際に、文章のどの部分を用いるかを目的に照らして検討したりするなど、学んだことが生かせるように学習の展開を工夫することが大切である。

学習指導に当たっては、令和5年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語③に係るコラム「[知識及び技能]の位置付けの工夫～『具体と抽象という概念』を理解する～」も参考になる。(参照)

「令和5年度【中学校】報告書 コラム③」p.54

https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang_04_k_1.pdf#page=37

設問三

趣旨

文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。 《構造と内容の把握》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
②	三	1 Aの欄に2、Bの欄に4と解答しているもの	64.8 ◎
	2 Aの欄に2と解答し、Bの欄に3と解答しているもの	3.0	
	3 Aの欄に2と解答し、Bの欄に3または4と解答していないもの	3.0	
	4 Bの欄に4と解答し、Aの欄に1と解答しているもの	18.3	
	5 Bの欄に4と解答し、Aの欄に1または2と解答していないもの	1.4	
	99 上記以外の解答	8.8	
	0 無解答	0.6	

2. 分析結果と課題

○ 解答類型2～5の反応率の合計は25.7%である。このように解答した生徒は、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることに課題がある。

解答類型4の生徒は、「ナンバンギセルなどの寄生植物」の例が、「植物の本質的な生き方にも例外があること」を述べるために示されていることを捉えることはできている。一方で、「二次元的」、「三次元的」という語句の文脈上の意味を具体的に捉えることができなかつたか、事例と適切に結び付けて理解することができなかつたため、「ネギの葉」の例が、「植物の葉の二次元的な形が多様に存在すること」を述べるために示されていると誤って捉えたものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

文脈における語句の意味を理解し、主張と例示との関係を捉える

説明的な文章において主張と例示との関係を捉える際には、各段落が文章全体の中で果たす役割について捉え、それが書き手の考えを伝える上でどのような効果をもたらしているかなどを考えながら読むことが大切である。その際、第2学年〔知識及び技能〕の(2)「ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。」などとの関連を図ることが考えられる。

例えば、説明的な文章を読んで筆者の主張と例示を捉え、文章の構成や展開について他者に説明する学習活動が考えられる。その際、どのような具体例が示されているか、それはどの主張を支えるために示されているかなどを確認した上で、文章の構成や展開と結び付けて説明することができるように指導することが大切である。また、文章中で使われている語句の意味の理解が恣意的なものとならないよう、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して内容を捉えることも重要である。

設問四

趣旨

目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。 《精査・解釈》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
②	四	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① アとイのいずれか一つの〈着目する内容〉を選んで、その記号を塗り潰している。 ② 選んだ〈着目する内容〉について、必要な情報を適切に取り上げて書いている。 ③ 選んだ〈着目する内容〉について、まとめて書いている。 (正答例) ・ア 葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分け、前者には多様性、後者には共通性という特徴があると述べている。 ・イ 数学や物理学などは普遍性の学問、生物学は普遍的なことにも例外のある多様性の学問という違いがあると述べている。		
	1	条件①、②、③を満たして解答しているもの	43.3	◎
	2	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.0	
	3	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	36.1	
	99	上記以外の解答	12.3	
	0	無解答	8.3	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ア
筆者は、葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分けている。
- ・イ
筆者は、数学や物理学、それに化学の一部は、普遍性の学問だと述べている。

このように解答した生徒は、選んだ〈着目する内容〉について、自分を取り上げた情報をまとめて書くことはできているが、目的に応じて必要な情報を不足なく取り上げて書くことができていない。選んだ〈着目する内容〉と自分が書いた要約とを照らし合わせて、必要な情報を十分に取り上げているかを確認することなどができていないものと考えられる。

(例)

- ・ア
筆者は、二次元的は平面的という特徴があり、三次元的は厚み方向という特徴があると述べている。
- ・イ
筆者は、数学や物理学には法則があるけれど、生物学には法則がないと述べている。

このように解答した生徒は、選んだ〈着目する内容〉について、自分を取り上げた情報をまとめて書くことはできているが、本文の内容を正確に捉えて要約することができていない。自分が書いた要約の内容と本文の内容とに齟齬がないかを見直すことなどができていないものと考えられる。

- 本問と2四のクロス集計の結果から、本問で正答（解答類型1）の生徒のうち、2二でも正答（解答類型2）の生徒の割合は、86.1%であった。このことから、目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる生徒の方が、文章の中の情報と情報との関係が具体と抽象の関係であることを捉えることができているものと考えられる。

2四と2二のクロス集計の結果

(%)

2四	2二		
	全体	正答	誤答または無解答
正答	100.0	86.1	13.9
誤答または無解答	100.0	67.4	32.6

※表の数値は、小数第二位を四捨五入したものであるため、合計が一致しない場合がある。

- 本問と2三のクロス集計の結果から、本問で正答（解答類型1）の生徒のうち、2三でも正答（解答類型1）の生徒の割合は、79.6%であった。このことから、目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる生徒の方が、文章の中で示されている主張と例示との関係を捉えることができているものと考えられる。

2四と2三とのクロス集計の結果

(%)

2四	2三		
	全体	正答	誤答または無解答
正答	100.0	79.6	20.4
誤答または無解答	100.0	53.6	46.4

※表の数値は、小数第二位を四捨五入したものであるため、合計が一致しない場合がある。

3. 学習指導に当たって

目的に応じて必要な情報に着目して要約する

要約するとは、文章の全体又は部分を短くまとめることである。概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて内容や分量、方法が異なる。そのため、要約する際には、目的を明確にすることが大切である。その上で、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約することが重要である。

例えば、目的や相手を明確にして、実生活の中にある文章の内容を要約して伝える学習活動が考えられる。その際、目的に応じて必要な情報を適切に取り出してまとめられているか、自分の言葉を用いてまとめた部分と文章の内容とに隔たりがないかなどを確認しながら、適切さや正確さを意識して要約することができるように指導することが大切である。また、雑誌やインターネットニュースの記事などを教材として用いることで、実生活とのつながりを意識できるように指導することも効果的である。具体的な授業のアイデアの一例を次に示す。

授業アイデア例 伝える対象や目的を意識し、必要な情報に着目して要約する

【本アイデア例と関連する問題及び学習指導要領における内容】

設問四 正答率 43.3%

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 C

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。

教材

● 「健康づくりのための睡眠ガイド」(令和6年2月 厚生労働省 健康づくりのための睡眠指針の改定に関する検討委員会)

学習の流れ

第1時

① 学習の見通しをもつ。



伝える相手を想定し、資料の内容を要約して伝える学習をします。基にする資料は、「健康づくりのための睡眠ガイド2023(こども版)」です。

教師

〔健康づくりのための睡眠ガイド2023(こども版)〕



厚生労働省ホームページ (<https://www.mhlw.go.jp/content/001254003.pdf>)

② 要約について確認する。



要約は、生活の中のどのような場面で役に立つと考えますか。

〔生徒の発言の例〕



自分が文章の内容を理解するために、簡単な言葉で言い換えてまとめるときに必要だと思います。

長い文章を一通り読んでまとめるときに必要だと思います。例えば、本を紹介するときに、ストーリーを要約して伝えることがあります。



例えば、校外学習で学んできたことを伝えるときにも、短くまとめます。これも要約と言えるでしょうか。



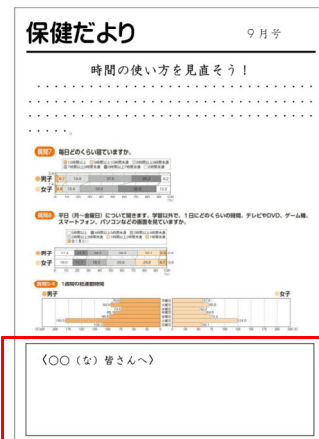
③ 言語活動のイメージを共有する。



要約する力は生活の様々な場面で役立つものですね。実は、保健委員会の担当の山田先生から9月号の「〇〇な人のための睡眠コラム」を書いてほしいという依頼がありました。中学生の皆さんが、よりよい睡眠をとることができるよう、「〇〇な皆さんへ」といったように対象を決めてコラムを書いていきます。この部分に載せる文章なので、130字から200字程度にまとめてください。

※ 保健だよりのコラムの見出しを「〇〇（な）皆さんへ」とし、伝える対象を意識できるようにする。

〔保健だよりの例〕



④ 学習計画を立てる。



これから資料の内容を要約してコラムを書くに当たって、どのように学習を進めていきたいのかを考え、端末を使って交流してみましょう。

※ ここでは、学習支援ソフトの掲示板機能・コメント機能を利用している。

〔個人が考える「要約の進め方」の書き込みの例〕



先生
9月2日
要約の手順を教えてください！

コメント 20件



横井 9月2日
1：資料全体を読む。
2：まとめたいことに関係していると思う段落を選ぶ。
3：選んだ段落の中のいらぬ情報を削る。
4：文章を整える。
5：まとめた文章を見直す。



竹内 9月2日
1：見出しを確かめ、資料の必要な部分を中心に読む。
2：必要な部分に線を引く。
3：「2」で線を引いた部分の中で大切だと思う言葉などを丸で囲む。
4：「3」で選んだ言葉をまとめて、どのように言い換えるか考える。
5：文にまとめる。



早川 9月2日
1：資料を読む。
2：興味深いところに線を引く。
3：書き手が伝えたいことを考える。
4：キーワードだと思う言葉を抜き出す。
5：キーワードをつなげて文にまとめる。



自分が書き込んだ中で特に大事だと思うことや、友達の書き込みでやってみたと思ったこと、また、書き込みを見て他に思い付いたことがあったら、出し合ってみましょう。

〔生徒の発言の例〕



伝える対象を意識して必要な情報を探し、それを基に要約していきます。

そのためには、どのような人を対象とするか考える必要があると思います。



完成する前に、友達に要約文を読んでもらって意見を聞いてみたいです。

私も友達に読んでもらいたいのですが、同じような人を対象としてコラムを書いている人に見てもらいたと思います。



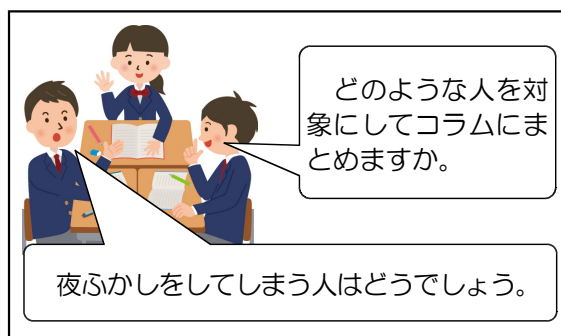
それでは、書き込みや発言を参考にして、資料を要約してコラムにまとめるために、自分はどうのように学習を進めていくのか考えてみましょう。計画を立てたら、自分なりの進め方で学習を進めていきましょう。

- ⑤ どのような人を対象とした「睡眠コラム」にするのかを決め、必要な情報に着目して要約する。

〔一人で進めている例〕



〔友達と相談しながら進めている例〕



〔それぞれの生徒の学習状況を確認できる一覧の例〕

名前	コラムの対象
横井	普段から運動をしている人
竹内	夜ふかしをしてしまう人
早川	スマートフォンをよく使う人

※ 生徒が目的をもって交流できるように、どの生徒がどのような人を対象としてコラムをまとめているのか等を、いつでも閲覧できるようにしておく。模造紙等のほか、クラウド上で共有することも考えられる。

第2時

※ それぞれの生徒のペースで学習を進めるため、以下に示す交流は第1時に見られることもあると考えられる。

〔対象が異なる要約文を書いている生徒同士の交流の様子〕

〔Aさんがまとめた要約文の例〕

〈普段から運動をしている皆さんへ〉
進級に伴い課外活動が増え、生活習慣が大きく変化し、睡眠時間にも影響することがあります。睡眠には、心身の休養と、脳と身体を成長させる役割があり、睡眠は心身の健康にとって重要です。適度な運動はよい眠りにつながりますが、就寝前1時間以内の激しい運動はかえって睡眠の質を低下させるので、寝る直前の運動は控えましょう。



Bさんが書いた要約文と私が書いた要約文とでは、内容が全く違いますね。

Aさん



私は、「デジタル機器をよく使う人」を対象にコラムを書いています。だから、資料の「デジタル機器使用の回避」の部分から、機器の使い方を見直すポイントを伝えようと考えました。Aさんは、資料のこの部分については触れていませんね。

Bさん



そのとおりです。私は「普段から運動をしている人」を対象としたコラムを書いているので、「デジタル機器使用の回避」の部分は取り上げる必要がないと判断しました。「運動習慣の定着」の後半の部分の情報を取り上げてまとめました。



伝える相手が違うと、必要な情報が違いますね。

〔Bさんがまとめた要約文の例〕

〈デジタル機器をよく使う皆さんへ〉
デジタル機器の使用などが増えると、睡眠負債が蓄積しやすくなります。また、ディスプレイの視聴距離が近いとブルーライトを浴びやすく、寝付きや睡眠の質が悪化します。スクリーンタイムが長くなりすぎないようにし、デジタル機器は寝室には持ち込まず、電源を切って別の部屋に置いておきましょう。

〔健康づくりのための睡眠ガイド 2023（こども版）の一部〕

デジタル機器使用の回避

- デジタル機器は寝室には持ち込まず、電源を切って、別の部屋に置いておきましょう。特に、寝そべりながらデジタル機器を使うと、ディスプレイの視聴距離が近くブルーライトを浴びやすくなるため、寝つきや睡眠の質の悪化につながります（⇒「良質な睡眠のための環境づくりについて」参照）。

運動習慣の定着

- 座りっぱなしの時間、特にスクリーンタイム（テレビ視聴やゲーム・スマホ利用など）が長くなりすぎないようにしましょう。小・中・高校生は1日当たり60分以上からだを動かし、スクリーンタイムは2時間以下にすることが推奨されています（⇒「運動、食事等の生活習慣と睡眠について」参照）。長時間の座位行動（及びスクリーンタイム）は肥満の増加や睡眠時間の減少と関連し、逆に、適度な運動は、良い眠りにつながります。運動は1日の中でどの時間に行っても睡眠の質を改善しますが、就寝前1時間以内の激しい運動はかえって睡眠の質を低下させる可能性がありますので、寝る直前の運動は控えたほうが良いでしょう。

⑥ 要約文の内容を吟味している様子を把握し、元の文章の内容を正確に捉えて要約していない場合、要約文を吟味する視点を全体で共有する。



このあと、自分がまとめた要約文を見直して、よりよいものに仕上げます。どのような視点で見直すとよいかを考えるために、次に示す要約文を読んで、気になったことについて意見を交換しましょう。

〔教師が用意した要約文の例〕

〈睡眠不足ぎみの皆さんへ〉

思春期が始まる頃から夜寝る時刻が遅くなって、朝起きるのが難しくなる傾向が見られます。睡眠不足が続くと病気になるので、予防対策が重要です。寝そべりながらデジタル機器を使うと、寝付きや睡眠の質の悪化につながるので、デジタル機器を寝室に持ち込まないようにしましょう。

〔意見を交換している場面の例〕



伝えたいことが、短くまとめられていてよいと思います。



この要約文は、資料の内容を正確に伝えているのでしょうか。



「睡眠不足が続くと病気になる」とありますが、資料に書かれているのは、健康リスクが高まるということです。「病気になる」とまでは書かれていません。



要約文が、元の資料が伝えていることと異なる内容になってはいけませんね。



要約文では、「思春期が始まる頃から夜寝る時刻が遅くなって、朝起きるのが難しくなる傾向が見られます。」となっていますが、夜寝る時刻が遅くなる原因には触れていませんね。



確かに情報が少し足りないように思います。資料の「夜ふかしが生じる原因」の一文目から情報を取り上げるとよいのではないのでしょうか。



そうですね。今、皆さんが確かめたように、「自分の言葉を用いて言い換えた部分は、資料が伝えている内容と違ってないか」、「取り上げる情報が十分か」などを視点に、自分がまとめた要約文を見直してみましょう。

⑦ 学習を振り返る。



今後の授業や生活に生かせるように、今回の学習を通して改めて分かったことをまとめます。振り返って気付いたことを挙げてみましょう。

〔健康づくりのための睡眠ガイド

2023（こども版）の一部〕

睡眠の機能と睡眠不足による健康リスク

- 睡眠には、心身の休養と、脳と身体を成長させる役割があります。適切な睡眠時間を確保することは、こどもの心身の健康にとって重要です。睡眠時間が不足することによって肥満のリスクが高くなること、抑うつ傾向が強くなること、学業成績が低下すること、幸福感や生活の質（QOL）が低下することが報告されています（図1）。

夜ふかしが生じる原因

- 思春期が始まる頃から睡眠・覚醒リズムが後退し、睡眠の導入に関わるホルモン（メラトニン）の分泌開始時刻が遅れることで、夜寝る時刻が遅くなり、朝起きるのが難しくなる傾向がみられます。さらに、社会的な要因も夜ふかしに影響します。部活動や勉強、友人とのつきあい、デジタル機器の使用などで、夜遅くまで活動することが増えますが、朝は学校に遅刻しないよう起床する必要があるため睡眠不足になりやすく、睡眠負債が蓄積しやすくなります。学校のない休日は、睡眠負債を解消するために起床時刻を遅らせることにより、午前中の時間帯に日光を浴びることができず、睡眠・覚醒リズムは後退しやすくなります。思春期以降、社会人になるまでの時期は、もっとも夜ふかし、睡眠不足、休日の朝寝坊が生じやすくなるといえます。

〔生徒の発言の例〕

今回は、コラムを書くために要約しましたが、例えば、自分が興味をもったインターネット記事を要約して紹介するなど、目的や状況が変われば文章の分量が変わるし、取り上げる情報も変わることが分かりました。



自分の言葉を使って言い換える場合は、自分の使った言葉で表現したことが、元の文章の内容で伝えたいことから変わってしまっていないか、しっかりと確認したいと思います。

〔生徒の記述や発言をまとめた板書の例〕

ポイント

- ◎ 目的に応じて必要な情報に着目して
要約する際の留意点
- ① 要約する目的に応じて情報を取り上げる。
 - ・ 要約は、文章全体を要約することだけではない。
 - ・ 要約する目的が変わると内容や分量も変わる。
- ② 要約した文章の内容が、基となる文章の内容と変わっていないか確かめる。
 - ・ 文章を短くしたことによって、情報が不足してしまうことがある。
 - ・ 自分の言葉を用いて言い換えた場合に、伝わるが変わってしまうことがある。

【活用する際のポイント】

- 特別活動や総合的な学習の時間など、他教科等の学習で生徒が要約した文章を、本アイデア例の学習の中で取り上げて検討することも考えられる。また、他教科等の学習で調べたことをまとめるなどして伝える学習を行う時期に合わせて、本アイデア例の学習を位置付けることも効果的である。
- 目的に応じて必要な情報に着目して要約する必要性を感じられるよう、さらに分量が多い資料を教材として用い、「要約して資料の概要版を作成する」等の活動を設定することも考えられる。

※出典等

- ・ 園池公毅『植物の形には意味がある』（2016年4月 ベレ出版）による。
- ・ 「健康づくりのための睡眠ガイド」（令和6年2月 厚生労働省 健康づくりのための睡眠指針の改定に関する検討委員会）による。（一部改変）